

フィールドスタディ(地域自立)参加レポート

早稲田大学公共経営大学院

山内 健輔

(1) プログラムの実施スケジュール

フィールドスタディ(地域自立)は8月6日~8月10日までの5日間の日程で実施された。

[1日目]後藤新平記念館、平泉見学

[2日目]市長講義、奥州市職員ヒアリング(広聴広報係・商業観光課・元気戦略室)。宇宙遊学館・天文台、田んぼアート、伝統産業会館、水沢江刺駅見学、歓迎会

[3日目]牛の博物館見学、牛肉生産業者ヒアリング、早大黒澤教授特別講義、高野長英記念館見学、奥州市観光物産協会見学

[4日目]中間発表に向けた準備、中間発表

[5日目]政策提言発表プレゼンテーション

(2) プログラムの内容要約・取り組んだ課題

「奥州市に縁がある人物とのコラボレーションによる市のPR戦略」を提案するというテーマのもと実施された。前沢牛や江刺りんご、南部鉄器といった知名度の高い特産物や観光資源がある一方で、奥州市自体の認知度が低いといった課題を抱えている中でのテーマ設定だった。奥州市には後藤新平や斎藤実といった偉人や、プロ野球選手の大谷翔平、フジテレビアナウンサーの久慈暁子などの有名人がいる。また、現在奥州市は市にゆかりのある人物を奥州大使として任命し仕事や活動の中で奥州市をPRしてもらう取り組みを行っている。

(3) 参加して得た成果、感想

4~5人のチームを2班編成し、課題に対する政策提案をまとめた。私は学部からそのまま大学院に進学した「ストレートマスター」であるが、社会人の学生も多く、多様なバックグラウンドを持つ中での議論は刺激的で大変勉強になった。

現地に足を運び、地域の資源を目で見て、現地で頑張る人の声をしっかりと聞いて受け止めることがフィールドワークの醍醐味で、文献やインターネットの情報からは決して得られない重みのある課題認識ができた。

(4) プログラムのおすすめポイント等

市から提示されたテーマについて、課題を発見し現状を分析し、適切な解決策・政策を市長はじめ市の政策担当者たちに直接提言できる機会中は中々ない。最終日のプレゼンテーションでは市長や市議会議員、政策担当者などの職員に多く参加して頂き、鋭いご指摘や

ご質問を頂いた。学生の言うことだから、と甘く軽く聞き流すのではなく、実現可能性を真剣に考えて頂けたことはありがたいものだった。

また最終日のプレゼンテーションのために、夜遅くまでチームメンバーで集まり熱い議論を重ねたことが印象深い。人数が多ければ多い程合意形成や内容の集約が難しくなるものだが、その分多角的な視点が活かされ、厚みのある提案を行うことができた。時間の制約がある中で、妥協することなく質を高め厚みのある提案を行うのはとても難しいことだが、そうした経験をすることができたのはこのフィールドワークに参加した最大の成果であり、これを読んでいる方にも是非教室を飛び出して現場に向かう楽しさを味わっていただきたい。